

### 前回専門委員会での各委員からの意見等に対する補足説明

水域名	前回委員会における指摘・意見等	対応
相模川 下流	① 相模川下流域における下水処理については、域外放流しているのが、生活系の負荷量にはカウントしないが、生活系 10,427kg/日 <sup>注1)</sup> となっており、この中に含まれているか否か確認すること。(藤木委員)	生活系 10,427kg/日 <sup>注1)</sup> は、流域の発生負荷量である。また、相模川下流の下水処理場は、四之宮管理センターと柳島管理センターがあるが、域外放流は柳島管理センターであり、将来水質予測の検討ではこの負荷量は除外している。
渡良瀬川 (2)	② 渡良瀬川(2)の流域フレームを算出した表とそれに対応した経年変化のグラフが一致しないので確認しておくこと(井上委員)。	別紙1参照
	③ 渡良瀬川(2)に流入する支流において袋川下流はDタイプと水質が著しく悪く、渡良瀬川(2)の基準点下流地点で評価と異なる水質になっているおそれがあるのではないかと(古米委員)。(現在Dタイプ、現在水質は75%値10mg/l)	別紙2参照
筑後川 (3)	④ 筑後川(3)外、p5の表2.2の水質測定結果が年ではなく年度で整理してあるか確認しておくこと(古米委員)。	別紙3参照
	⑤ 筑後川の下流は感潮域であるため、BOD濃度が有明海からの影響はないか確認しておくこと(藤木委員)、また、その塩分濃度を確認しておくこと(小倉委員)。	別紙4参照
	⑥ 筑後川(3)のH17年度の高濃度原因について濁水流量の値から濁水年であることを理由に特異値として整理しているが、通常低水時の流量でみるのではないかと。濁水年の整理については再検討頂きたい(長岡委員)。	別紙5参照
深山ダム 川治ダム	⑦ 深山ダム、川治ダムで降雨影響時の水質データを異常値という表現を用いているが、違和感があるので、違う表現に修正頂きたい(井上委員)。	今後は、「先行降雨の影響を受けた値」に修正。
全般	⑧ 流総計画をH20年に見直しているのが、H20年版の原単位を確認しておくこと(古米委員)	別紙6参照
	⑨ 大腸菌群数は対数平均で別途算出するべきではないかと(小倉委員)	別紙7参照
	⑩ DOの測定データは全層、表層等記述がまちまちなので、統一するよう検討して欲しい(小倉委員)。	渡良瀬川遊水池及び荒川貯水池、川治ダム、深山ダムは、表層のみの測定となっている。土師ダム、弥栄ダム、相模ダム、城山ダム、は複数層で測定しているが表層で統一する。

注1)平成21年3月に実施された相模川検討会において、現況フレームの見直しを行い、12,328kg/日に修正した。

### 今後の課題

水域名	前回委員会における指摘・意見等
全般	① 先行降雨の判断基準を厳格に示すことはできないかと(田尾委員)。
	② 類型指定する時には降雨影響のある特異値を使わないということなら、同じように常時監視の評価に特異値を採用しないことを明記すべき、このことを自治体に周知することで、降雨時に採水をしないことが徹底されることにつながると思う(井上委員)。
	③ 当てはめからT-Nが抜けると測定されなくなるのではないかと懸念される(藤木委員)。
	④ 将来制度的にダム湖の窒素適用をすべからく適用するといった見直しがあるなら、その結論がでるまでは窒素をはずすことを保留の方が良いのではないかと(井上委員)。

<渡良瀬川 (2) の流域フレームについて>

流域フレームを算出した表とグラフが整合しないことについては、フレーム値には誤りはなく、グラフを以下の通り修正する。

表 総人口及び現況し尿処理形態別人口の算出

	下水道	コミュニティ プラント	農集排水	合併 浄化槽	単独 浄化槽	計画収集	自家処理	総人口
足利市	71,916	2,664	467	8,394	50,779	26,110	0	160,330
日光市	45,641	0	0	10,879	24,692	15,999	11	97,222
桐生市	81,518	393	3,683	6,982	17,736	20,055	20	130,387
みどり市	4,409	0	829	9,094	28,464	9,040	10	51,846
太田市	42,653	15,221	7,567	40,153	87,125	21,419	20	214,158
計	246,137	18,278	12,546	75,502	208,796	92,623	61	653,943

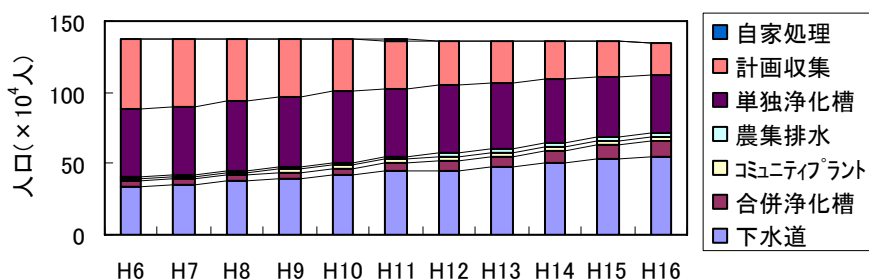
資料：環境省廃棄物処理技術情報(環境省)

栃木県資料

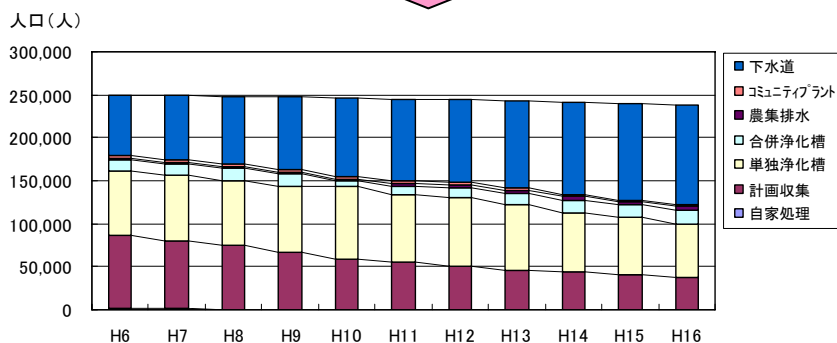
群馬県資料

↓ ×市街地流域内メッシュ比率(足利市：0.610、日光市：0.049、桐生市：0.836、みどり市：0.505、太田市：0.004)

	下水道	コミュニティ プラント	農集排水	合併 浄化槽	単独 浄化槽	計画収集	自家処理	総人口
足利市	43,882	1,626	285	5,122	30,984	15,932	0	97,830
日光市	2,216	0	0	528	1,199	777	1	4,721
桐生市	68,109	328	3,077	5,833	14,818	16,756	17	108,939
みどり市	2,225	0	418	4,590	14,366	4,563	5	26,167
太田市	163	58	29	153	333	82	0	819
計	116,595	2,012	3,809	16,227	61,701	38,109	22	238,476



↓ グラフを以下に修正



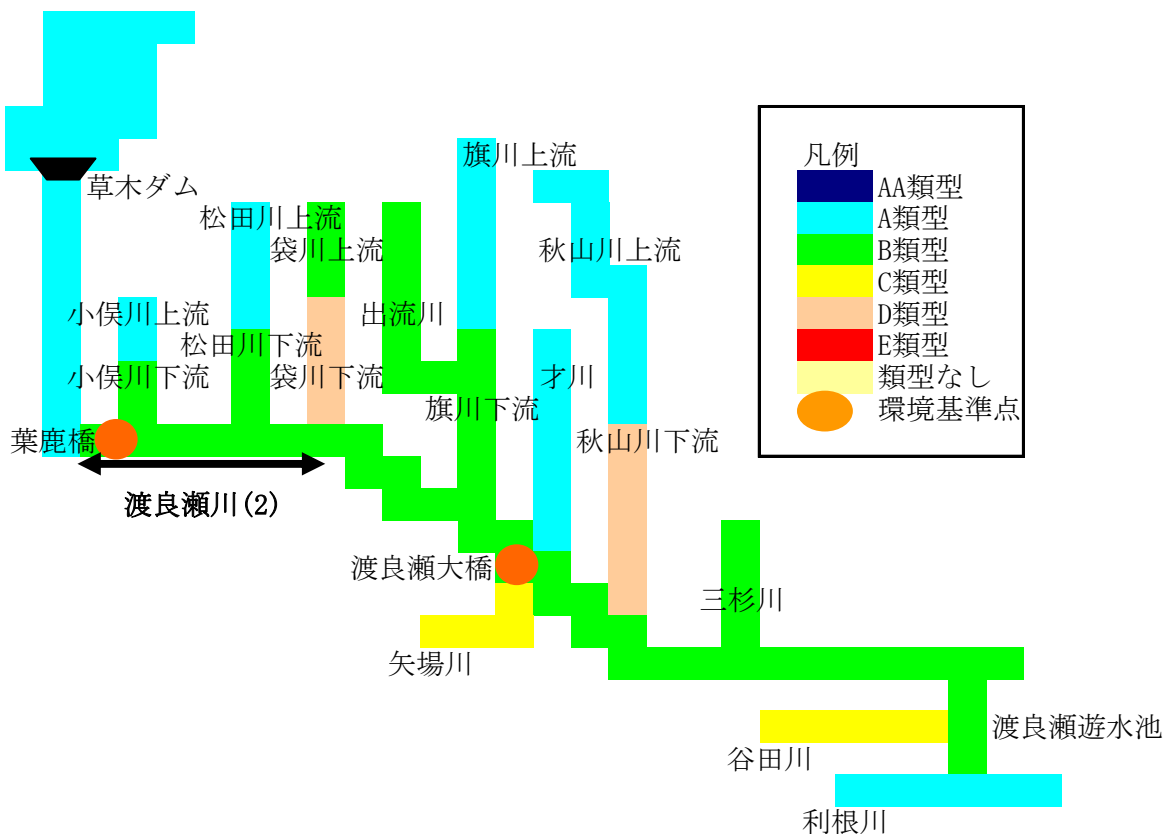
資料：栃木県及び群馬県提供資料

図 渡良瀬川(2)流域のし尿処理形態別人口の経年変化

<渡良瀬川（2）における袋川の影響について>

1. 渡良瀬川（2）水域と袋川との位置関係

袋川と渡良瀬川合流点は、渡良瀬川（2）水域の最下流端に位置しており、渡良瀬川（2）の評価には影響しない。



※袋川下流は、中央環境審議会水環境部会陸域環境基準類型指定専門委員会（第6回）においてE類型の表示とされていたが、D類型が正である。

図 渡良瀬川流域類型指定状況図

## 2. 袋川及び袋川下流の水質の状況について

袋川下流約 6km 地点に渡良瀬大橋が存在する（図 1）。本地点は、渡良瀬川（3）の環境基準点であるが、近年の BOD の状況は図 2（1）に示すとおりであり、特に袋川の水質汚濁の影響は受けていない。参考に袋川の BOD 経年変化を図 2（2）に示した。本河川は河川 D 類型に指定されており水質の悪化が顕著である。



出典：国土交通省関東地方整備局渡良瀬川河川事務所（資料：渡良瀬川の現状と課題）

図 1 渡良瀬川流域図

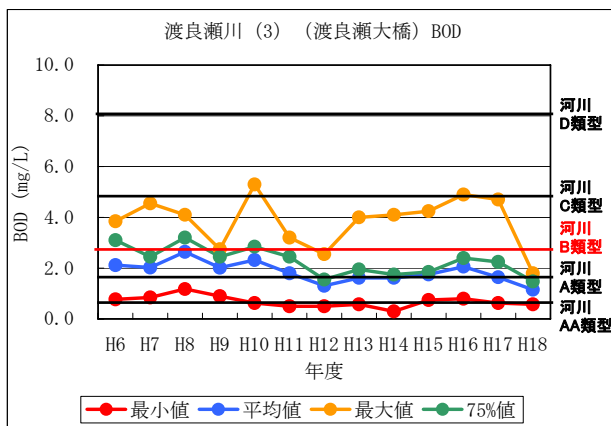


図 2（1） 渡良瀬大橋 BOD 経年変化

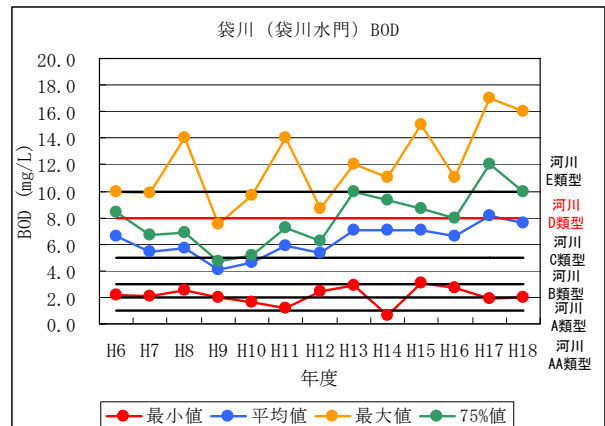
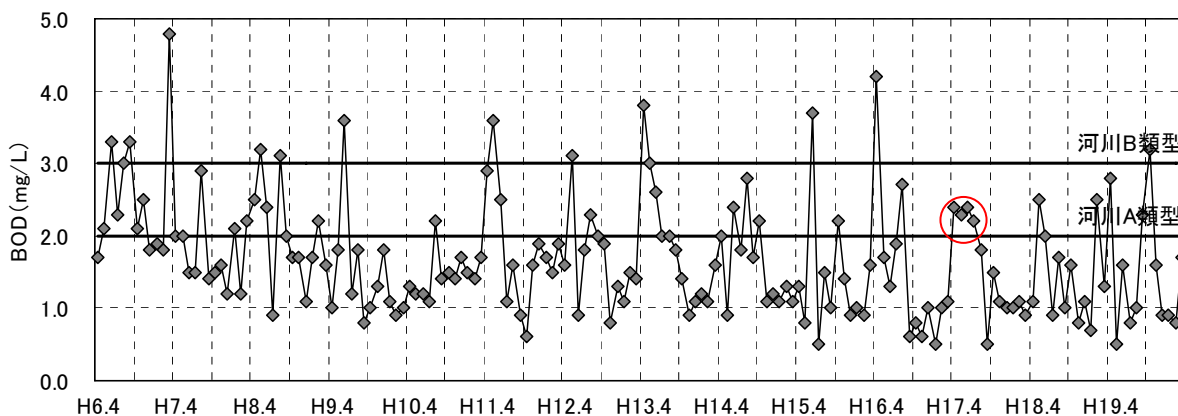


図 2（2） 袋川の BOD 経年変化

<筑後川 (3) の H17 測定データについて>

筑後川の H17 年度の測定データは、下図のとおり 1 月～3 月までのデータを修正。検討に用いるデータはすべて年度で整理しており、予測結果については影響しない。



筑後川(3)六五郎橋 H17年度			筑後川(3)六五郎橋 平成17年度		
採取月日	採取時分	BOD(mg/L)	採取月日	採取時分	BOD(mg/L)
425	1620	2.4	425	1620	2.4
516	840	2.3	516	840	2.3
615	825	2.4	615	825	2.4
721	1515	2.2	721	1515	2.2
812	650	1.8	812	650	1.8
912	805	0.5	912	805	0.5
1011	745	1.5	1011	745	1.5
1108	650	1.1	1108	650	1.1
1209	900	1.0	1209	900	1.0
111	740	0.7	123	805	1.0
209	705	2.5	206	820	1.1
312	730	1.3	307	735	0.9

図 六五郎橋調査毎の BOD 測定値

表 筑後川 (3) (六五郎橋) の BOD 測定結果

年度	BOD						現行 B 類型適否	<参考> A 類型適否
	最小	～	最大	m/n	年平均値	75%値		
6	1.7	～	4.8	3/12	2.6	3.0	○	×
7	1.2	～	2.9	0/12	1.8	2.0	○	○
8	0.9	～	3.2	2/12	2.0	2.4	○	×
9	0.8	～	3.6	1/12	1.4	1.8	○	○
10	1.1	～	2.2	0/12	1.5	1.5	○	○
11	0.6	～	3.6	1/12	1.8	1.9	○	○
12	0.8	～	3.1	1/12	1.6	1.9	○	○
13	0.9	～	3.8	1/12	1.9	2.0	○	○
14	0.9	～	2.8	0/12	1.6	2.0	○	○
15	0.5	～	3.7	1/12	1.4	1.5	○	○
16	0.5	～	4.2	1/12	1.5	1.7	○	○
17	0.5	～	2.4	0/12	1.5	2.2	○	×
18	0.7	～	2.5	0/12	1.4	1.7	○	○
19	0.5	～	3.2	1/12	1.5	1.7	○	○

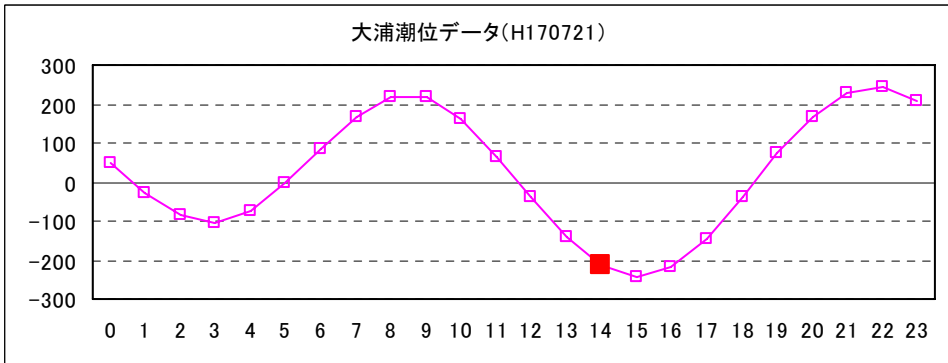
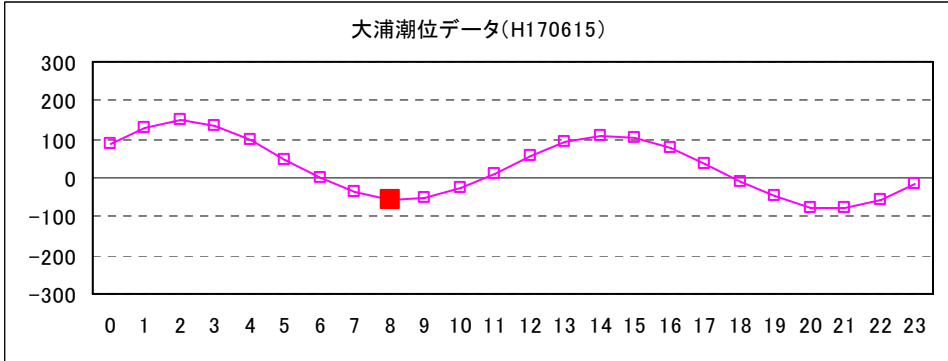
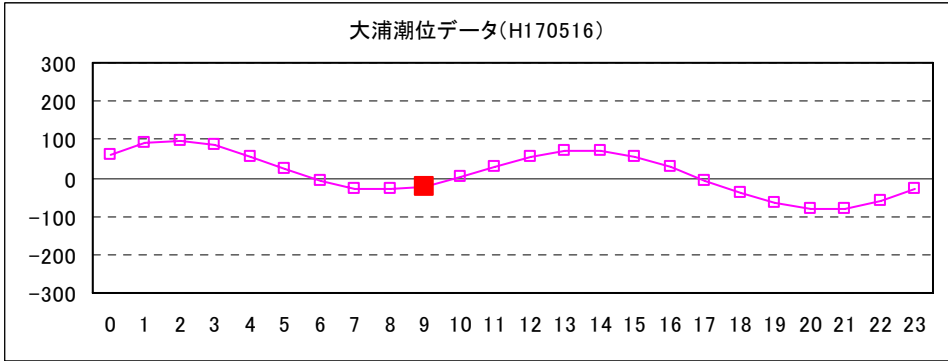
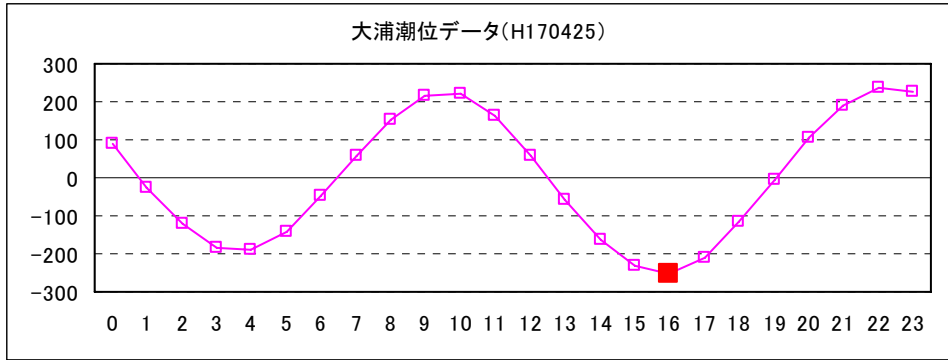
## ＜筑後川下流域での平成 17 年度 BOD 測定時の状況＞

筑後川（3）の六五郎橋で平成 17 年度に高濃度を記録した測定日（4/25、5/16、6/15、7/21）と大浦（図 1）の潮汐の関係を整理した（図 2）。

測定はいずれもほぼ干潮時に行われており、海水の影響はほとんど受けていないと考えられる。



図 1 潮位観測位置図



■ : 水質測定時刻

図2 大浦潮位データ (平成17年度、4月~7月)

参考として、平成17年から平成18年における六五郎橋のBOD濃度と塩分濃度を整理した。BOD濃度は、春季から初夏にかけて比較的大きな濃度を検出した。また、塩分濃度については、大きく変動する期間が見られ、限定的に海水の影響を受けている可能性が確認された。

また、平成17年度にBODが高濃度を記録した採水時刻の塩分濃度は、いずれも低い値を示しており、海水の影響は少なかったと考えられる。

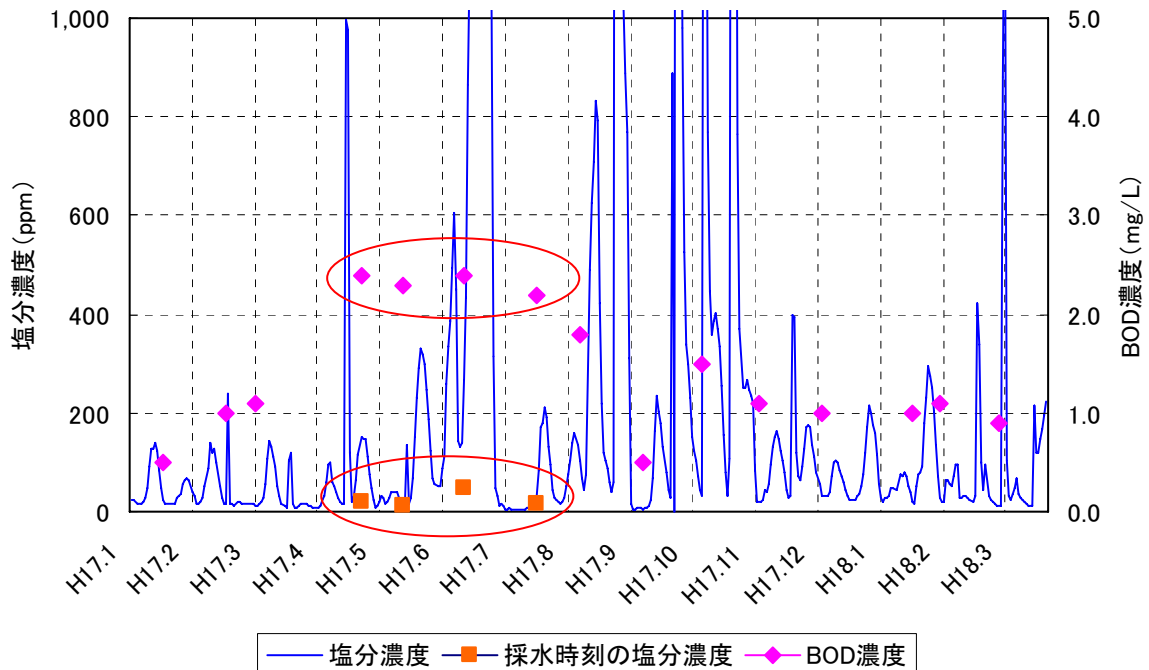


図3 六五郎橋の塩分濃度の経年変化（日平均）



<筑後大堰上下流の流況について>

筑後川(3)における平成17年度の高濃度の原因解析のため、筑後大堰の上下流の流況(瀬ノ下及び筑後大堰直下流)を整理した。

平成17年度の整理結果を図2に示す。平成17年の春先から初夏にかけて、筑後大堰下流側にほとんど流量が流れていない結果が確認された。

なお、図1に瀬ノ下及び筑後大堰の位置を示す。

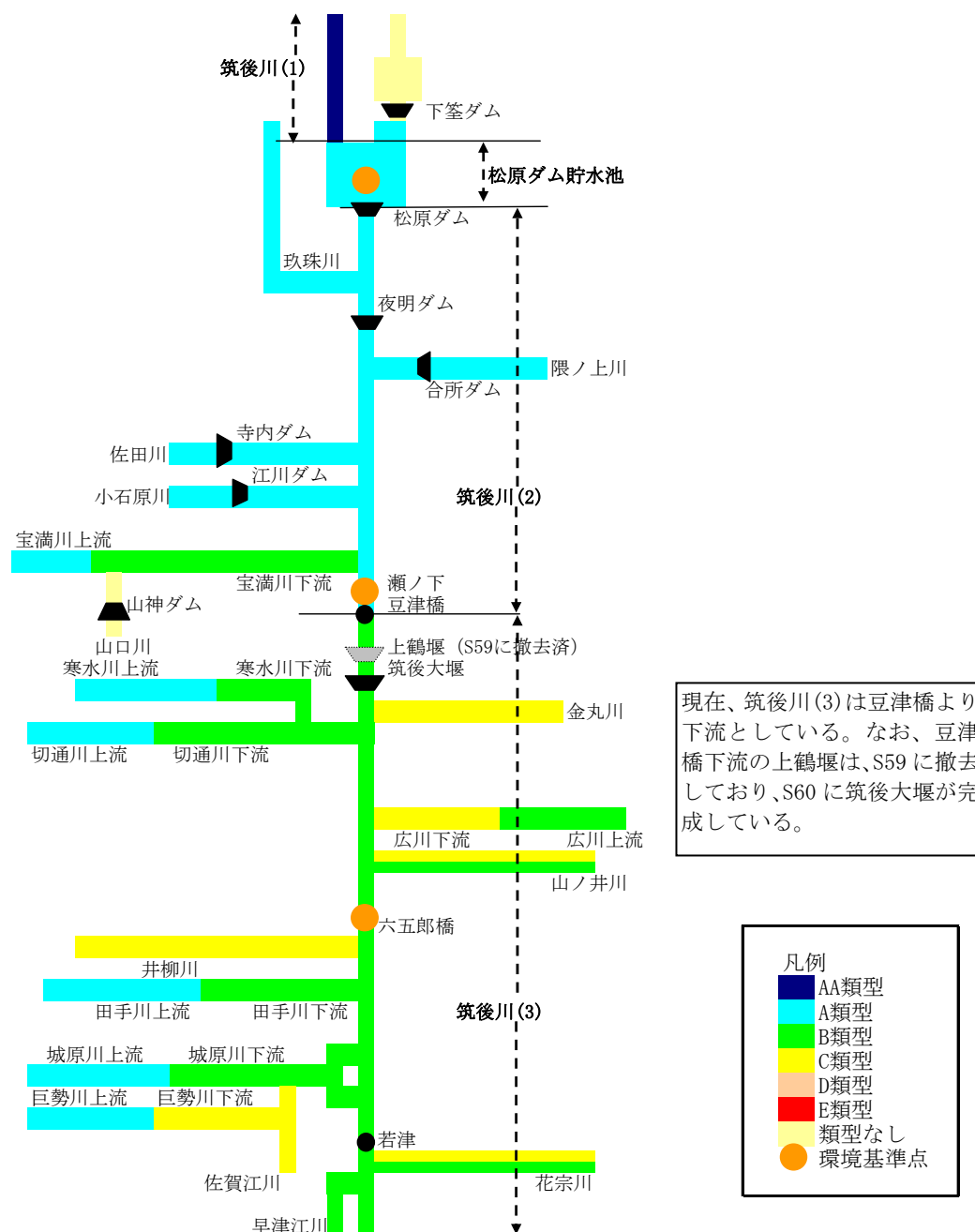
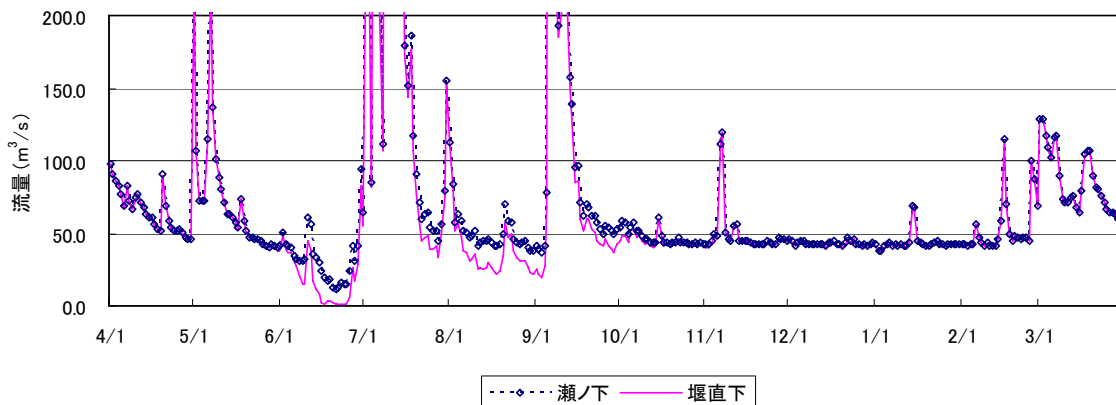


図1 筑後川(3) 概要図



※堰直下の流況については、速報値を用いて計算した換算流量

図2 筑後大堰の上下流の流況（瀬ノ下及び筑後大堰直下流）（平成17年度）

次に、筑後川（3）の平成17年度における高濃度の要因を分析するため、平成17年の月別平均降水量と近年20年の月別平均降水量と比較した。観測データは、流域の下流に位置する「柳川」と山間部に位置する「日田」のアメダスデータを用いた。整理結果を図3に示す。

高濃度を検出した平成17年4～6月にかけて、降水量はS63-H19平均値よりも小さくなっており、過去20年間で2番目に降水量が少ない結果となっている。

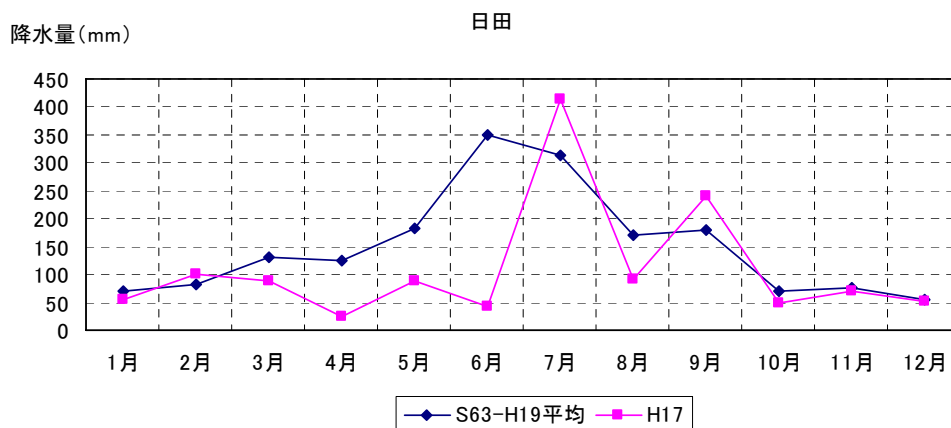
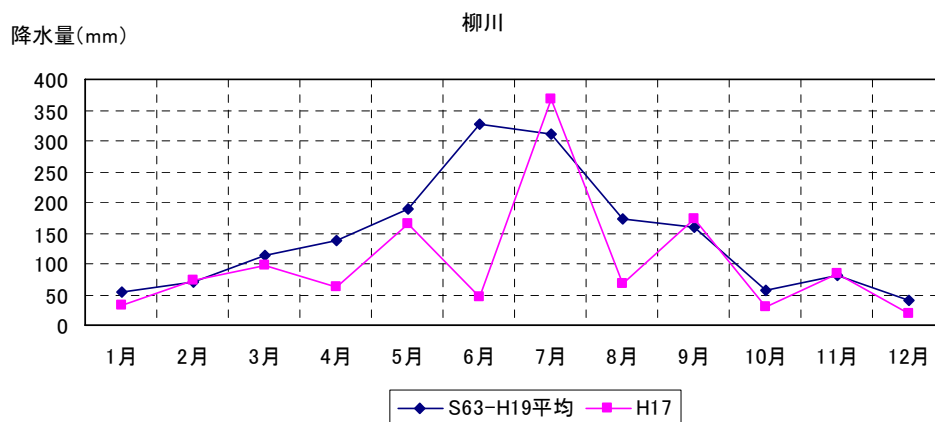


図3 筑後川（3）における降雨状況

表1 筑後川(3)における降雨状況(柳川)

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間	順位
S63	32	44	158	133	199	635	283	99	186	23	27	11	1,830	15
H1	134	189	122	30	278	181	146	80	434	27	77	20	1,718	9
H2	92	157	118	154	196	430	407	34	126	118	28	22	1,882	16
H3	28	113	186	136	256	512	400	170	125	25	46	40	2,037	18
H4	51	63	276	145	170	216	165	360	99	25	61	70	1,701	7
H5	32	77	105	206	105	629	397	475	270	58	130	52	2,536	20
H6	33	55	55	191	107	196	22	47	24	21	25	67	843	1
H7	30	24	59	149	368	255	598	93	236	45	40	4	1,901	17
H8	40	35	170	95	70	415	109	231	83	49	56	39	1,392	3
H9	38	31	104	153	216	243	689	324	215	6	238	94	2,351	19
H10	142	77	82	194	232	580	139	64	77	161	30	0	1,778	13
H11	29	37	87	88	131	517	189	246	289	45	106	14	1,778	13
H12	68	33	102	100	147	235	127	178	145	98	186	24	1,443	6
H13	102	75	43	68	64	346	400	107	217	162	129	41	1,754	12
H14	67	33	107	208	232	99	307	79	65	65	69	75	1,406	4
H15	41	70	105	201	150	246	384	279	47	8	150	33	1,714	8
H16	27	76	93	89	370	338	129	166	198	133	27	94	1,740	10
H17	33	74	97	61	166	46	368	68	173	31	84	18	1,219	2
H18	31	83	79	250	233	330	347	205	74	9	80	27	1,748	11
H19	26	66	116	82	106	69	593	155	90	40	15	71	1,429	5
S63-H19平均	54	71	113	137	190	326	310	173	159	57	80	41	1,710	

表2 筑後川(3)における降雨状況(日田)

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間	順位
S63	32	63	177	127	165	571	282	199	188	34	40	19	1,895	12
H1	146	175	116	43	331	168	169	192	413	27	41	41	1,859	11
H2	106	108	101	130	159	279	244	84	121	194	27	30	1,581	6
H3	42	137	227	157	257	667	392	71	176	23	52	47	2,246	19
H4	69	77	333	89	133	243	146	169	49	14	52	72	1,443	4
H5	65	61	119	209	90	677	532	412	290	76	111	82	2,722	20
H6	49	89	79	207	64	207	45	87	60	19	42	80	1,026	1
H7	57	23	78	190	327	228	588	130	205	70	49	8	1,949	13
H8	55	62	194	96	192	602	139	141	94	78	63	55	1,769	9
H9	55	58	103	176	269	202	672	168	223	17	155	88	2,184	18
H10	197	78	136	191	174	456	125	109	72	175	33	1	1,744	8
H11	28	54	86	95	148	633	199	210	382	39	91	20	1,981	14
H12	80	49	129	87	160	355	142	222	156	100	179	44	1,699	7
H13	120	102	94	50	77	490	506	151	135	132	132	38	2,024	17
H14	81	58	123	114	301	153	226	41	24	73	57	100	1,349	3
H15	55	64	122	177	148	253	430	267	43	19	167	39	1,781	10
H16	30	104	102	86	301	279	36	201	514	179	28	126	1,984	15
H17	56	101	87	24	88	44	413	93	239	49	69	51	1,310	2
H18	49	111	124	190	145	338	443	252	146	10	127	54	1,984	16
H19	55	66	76	91	97	177	547	205	48	86	30	87	1,561	5
S63-H19平均	71	82	130	126	181	351	313	170	179	70	77	54	1,804	

### ＜流総指針の汚濁負荷原単位について＞

平成 20 年 9 月に「流域別下水道整備総合計画調査 指針と解説」が改定された。汚濁負荷原単位について、H11 流総指針との相違点は、以下のとおりであり、土地系についてデータが蓄積されたため、COD、T-N、T-P の原単位が変更となった。

従って、中央環境審議会水環境部会陸域環境基準類型指定専門委員会（第 6 回）において提示した深山ダム、川治ダムについて、将来水質予測を見直した。結果を次ページに示す。

なお、BOD に変更はないため、河川については確認の必要がない。

表 流総指針における汚濁負荷原単位の比較 (H11-H20)

## ◆COD

区分	単位	H11流総		H20流総		備考	
		COD原単位	除去率(%)	COD原単位	除去率(%)		
生活系	合併浄化槽	g/人・日	27.0	71.5	27.0	71.5	
	単独浄化槽	g/人・日	10.0	53.5	10.0	53.5	
	雑排水	g/人・日	17.0	0.0	17.0	0.0	
	自家処理	g/人・日	10.0	90.0	10.0	90.0	
土地系	田	kg/km <sup>2</sup> /日	30.44	—	30.44	—	
	畑	kg/km <sup>2</sup> /日	7.32	—	13.56	—	
	山林	kg/km <sup>2</sup> /日	9.97	—	9.97	—	
	市街地	kg/km <sup>2</sup> /日	29.32	—	29.32	—	
	その他	kg/km <sup>2</sup> /日	11.56	—	11.56	—	
家畜系	乳用牛	g/頭・日	530.0	90.0	530.0	90.0	
	肉用牛	g/頭・日	530.0	90.0	530.0	90.0	
	豚	g/頭・日	130.0	90.0	130.0	90.0	

## ◆T-N

区分	単位	H11流総		H20流総		備考	
		T-N原単位	除去率(%)	T-N原単位	除去率(%)		
生活系	合併浄化槽	g/人・日	11.0	40.9	11.0	40.9	
	単独浄化槽	g/人・日	9.0	34.4	9.0	34.4	
	雑排水	g/人・日	2.0	0.0	2.0	0.0	
	自家処理	g/人・日	9.0	90.0	9.0	90.0	
土地系	田	kg/km <sup>2</sup> /日	3.51	—	3.67	—	
	畑	kg/km <sup>2</sup> /日	18.90	—	27.51	—	
	山林	kg/km <sup>2</sup> /日	1.21	—	1.34	—	
	市街地	kg/km <sup>2</sup> /日	4.44	—	4.44	—	
	その他	kg/km <sup>2</sup> /日	3.10	—	3.10	—	
家畜系	乳用牛	g/頭・日	290.0	90.0	290.0	90.0	
	肉用牛	g/頭・日	290.0	90.0	290.0	90.0	
	豚	g/頭・日	40.0	90.0	40.0	90.0	

## ◆T-P

区分	単位	H11流総		H20流総		備考	
		T-P原単位	除去率(%)	T-P原単位	除去率(%)		
生活系	合併浄化槽	g/人・日	1.3	42.3	1.3	42.3	
	単独浄化槽	g/人・日	0.9	30.0	0.9	30.0	
	雑排水	g/人・日	0.4	0.0	0.4	0.0	
	自家処理	g/人・日	0.9	90.0	0.9	90.0	
土地系	田	kg/km <sup>2</sup> /日	0.45	—	1.13	—	
	畑	kg/km <sup>2</sup> /日	0.20	—	0.35	—	
	山林	kg/km <sup>2</sup> /日	0.09	—	0.08	—	
	市街地	kg/km <sup>2</sup> /日	0.52	—	0.52	—	
	その他	kg/km <sup>2</sup> /日	0.15	—	0.15	—	
家畜系	乳用牛	g/頭・日	50.0	90.0	50.0	90.0	
	肉用牛	g/頭・日	50.0	90.0	50.0	90.0	
	豚	g/頭・日	25.0	90.0	25.0	90.0	

※ハッチングはH11 から変更となった箇所。BOD は変更なし。

# 1. 深山ダム

## (1) 発生負荷量

### ■H20流総

	COD(kg/日)		T-N(kg/日)		T-P(kg/日)	
	現況	将来	現況	将来	現況	将来
	平成17年度	平成25年度	平成17年度	平成25年度	平成17年度	平成25年度
生活系	0.0	0.0	0.0	0.0	0.00	0.00
家畜系	0.0	0.0	0.0	0.0	0.00	0.00
土地系	663.7	663.7	90.8	90.8	5.52	5.52
産業系	0.9	0.9	1.0	1.0	0.24	0.24
合計	664.6	664.6	91.8	91.8	5.76	5.76

### ■H11流総

	COD(kg/日)		T-N(kg/日)		T-P(kg/日)	
	現況	将来	現況	将来	現況	将来
	平成17年度	平成25年度	平成17年度	平成25年度	平成17年度	平成25年度
生活系	0.0	0.0	0.0	0.0	0.00	0.00
家畜系	0.0	0.0	0.0	0.0	0.00	0.00
土地系	663.5	663.5	82.2	82.2	6.04	6.04
産業系	0.9	0.9	1.0	1.0	0.24	0.24
合計	664.5	664.5	83.1	83.1	6.27	6.27

## (2) 将来水質予測

### ■H20 流総

項目		深山ダム	
		将来水質	変動範囲
水質 COD (mg/L)	年平均値	1.0	0.8~1.2
	75%値	1.0	0.9~1.1

項目		深山ダム	
		将来水質	変動範囲
水質 T-P (mg/L)	年平均値	0.005	0.001~0.009

### ■H11 流総

項目		深山ダム	
		将来水質	変動範囲
水質 COD (mg/L)	年平均値	1.0	0.8~1.2
	75%値	1.0	0.9~1.1

項目		深山ダム	
		将来水質	変動範囲
水質 T-P (mg/L)	年平均値	0.005	0.001~0.009

## 2. 川治ダム

### (1) 発生負荷量

#### ■H20流総

	COD(kg/日)		T-N(kg/日)		T-P(kg/日)	
	現況	将来	現況	将来	現況	将来
	平成17年度	平成25年度	平成17年度	平成25年度	平成17年度	平成25年度
生活系	20.1	17.9	6.6	6.1	0.89	0.82
家畜系	4.2	3.2	2.3	1.7	0.40	0.30
土地系	3250.7	3250.7	503.4	503.4	27.74	27.74
産業系	1.4	1.4	1.1	1.1	0.27	0.27
合計	3276.4	3273.2	513.4	512.3	29.30	29.13

#### ■H11流総

	COD(kg/日)		T-N(kg/日)		T-P(kg/日)	
	現況	将来	現況	将来	現況	将来
	平成17年度	平成25年度	平成17年度	平成25年度	平成17年度	平成25年度
生活系	20.1	17.9	6.6	6.1	0.89	0.82
家畜系	4.2	3.2	2.3	1.7	0.40	0.30
土地系	3237.2	3236.4	443.0	443.0	29.87	29.87
産業系	1.4	1.4	1.1	1.1	0.27	0.27
合計	3262.9	3258.9	453.0	451.9	31.43	31.26

### (2) 将来水質予測

#### ■H20 流総

項目		川治ダム	
		将来水質	変動範囲
水質 COD (mg/L)	年平均値	1.8	1.5~2.0
	75%値	2.0	1.6~2.3

項目		川治ダム	
		将来水質	変動範囲
水質 T-N (mg/L)	年平均値	0.39	0.30~0.49

項目		川治ダム	
		将来水質	変動範囲
水質 T-P (mg/L)	年平均値	0.01	0.00056~0.020

#### ■H11 流総

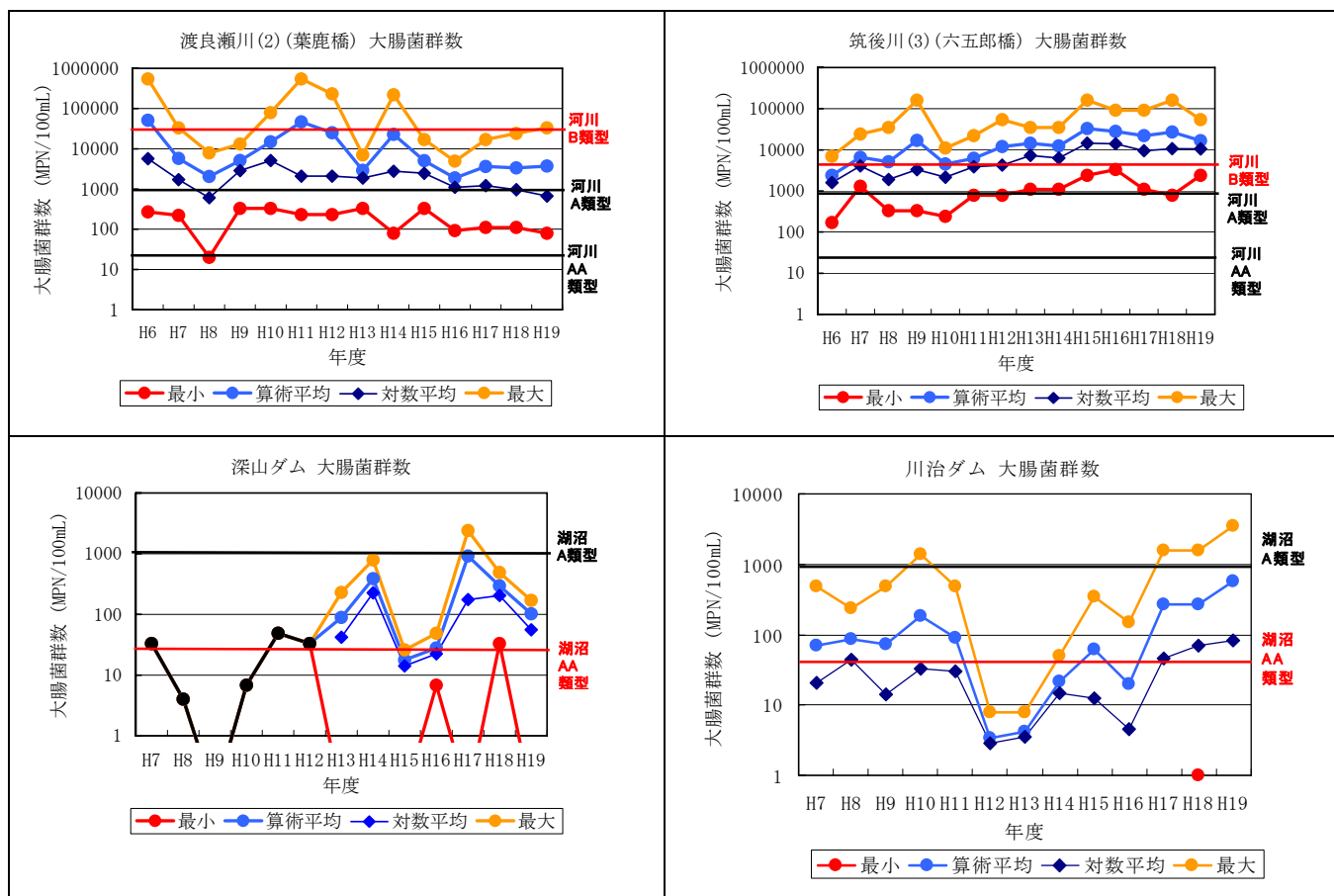
項目		川治ダム	
		将来水質	変動範囲
水質 COD (mg/L)	年平均値	1.8	1.5~2.0
	75%値	2.0	1.6~2.3

項目		川治ダム	
		将来水質	変動範囲
水質 T-N (mg/L)	年平均値	0.39	0.30~0.49

項目		川治ダム	
		将来水質	変動範囲
水質 T-P (mg/L)	年平均値	0.01	0.00058~0.020

<大腸菌群数の平均値算出方法について>

対数平均による算出結果は、以下のとおりである。



※相模川下流、土師ダム、弥栄ダムは資料4に示す。

図 大腸菌群数経年変化（算術平均と対数平均の比較）

正誤表

	正	誤																								
相模川下流	<p>今回資料 資料4-1 p21</p> <p>平成21年3月に開催された相模川検討会において現況フレームの見直しを行い、発生負荷量を以下の通り変更。</p> <p>相模川下流域の発生汚濁負荷量（単位：kg/日）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>生活系</th> <th>家畜系</th> <th>土地系</th> <th>産業系</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>BOD</td> <td>12,328</td> <td>776</td> <td>10,900</td> <td>1,830</td> <td>25,834</td> </tr> </tbody> </table>		生活系	家畜系	土地系	産業系	計	BOD	12,328	776	10,900	1,830	25,834	<p>第5回専門委員会 資料4 p8</p> <p>相模川下流域の発生汚濁負荷量（単位：kg/日）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>生活系</th> <th>家畜系</th> <th>土地系</th> <th>産業系</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>BOD</td> <td>10,427</td> <td>864</td> <td>10,903</td> <td>434</td> <td>22,629</td> </tr> </tbody> </table>		生活系	家畜系	土地系	産業系	計	BOD	10,427	864	10,903	434	22,629
	生活系	家畜系	土地系	産業系	計																					
BOD	12,328	776	10,900	1,830	25,834																					
	生活系	家畜系	土地系	産業系	計																					
BOD	10,427	864	10,903	434	22,629																					
渡良瀬川 (2)	<p>今回資料 資料3 p3</p> <p>袋川の類型指定をE類型からD類型に修正。渡良瀬川(2)の下流側矢印の位置を袋川合流点に修正。</p>	<p>第6回専門委員会 資料4-1 p2</p>																								



	正	誤																																																																																				
渡良瀬川 (2)	<p>今回資料 資料3 p2 グラフに誤りがあったため修正。</p>	<p>第6回専門委員会資料 資料4-1 p8</p>																																																																																				
筑後川 (3)	<p>今回資料 資料3 p5 平成17年1月～3月までのBODデータに誤りがあったため修正。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">筑後川(3)六五郎橋 平成17年度</th> </tr> <tr> <th>採取月日</th> <th>採取時分</th> <th>BOD (mg/L)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>425</td><td>1620</td><td>2.4</td></tr> <tr><td>516</td><td>840</td><td>2.3</td></tr> <tr><td>615</td><td>825</td><td>2.4</td></tr> <tr><td>721</td><td>1515</td><td>2.2</td></tr> <tr><td>812</td><td>650</td><td>1.8</td></tr> <tr><td>912</td><td>805</td><td>0.5</td></tr> <tr><td>1011</td><td>745</td><td>1.5</td></tr> <tr><td>1108</td><td>650</td><td>1.1</td></tr> <tr><td>1209</td><td>900</td><td>1.0</td></tr> <tr><td>123</td><td>805</td><td>1.0</td></tr> <tr><td>206</td><td>820</td><td>1.1</td></tr> <tr><td>307</td><td>735</td><td>0.9</td></tr> </tbody> </table>	筑後川(3)六五郎橋 平成17年度			採取月日	採取時分	BOD (mg/L)	425	1620	2.4	516	840	2.3	615	825	2.4	721	1515	2.2	812	650	1.8	912	805	0.5	1011	745	1.5	1108	650	1.1	1209	900	1.0	123	805	1.0	206	820	1.1	307	735	0.9	<p>第6回専門委員会資料 資料4-2 p7</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">筑後川(3)六五郎橋 H17年度</th> </tr> <tr> <th>採取月日</th> <th>採取時分</th> <th>BOD (mg/L)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>425</td><td>1620</td><td>2.4</td></tr> <tr><td>516</td><td>840</td><td>2.3</td></tr> <tr><td>615</td><td>825</td><td>2.4</td></tr> <tr><td>721</td><td>1515</td><td>2.2</td></tr> <tr><td>812</td><td>650</td><td>1.8</td></tr> <tr><td>912</td><td>805</td><td>0.5</td></tr> <tr><td>1011</td><td>745</td><td>1.5</td></tr> <tr><td>1108</td><td>650</td><td>1.1</td></tr> <tr><td>1209</td><td>900</td><td>1.0</td></tr> <tr><td>111</td><td>740</td><td>0.7</td></tr> <tr><td>209</td><td>705</td><td>2.5</td></tr> <tr><td>312</td><td>730</td><td>1.3</td></tr> </tbody> </table>	筑後川(3)六五郎橋 H17年度			採取月日	採取時分	BOD (mg/L)	425	1620	2.4	516	840	2.3	615	825	2.4	721	1515	2.2	812	650	1.8	912	805	0.5	1011	745	1.5	1108	650	1.1	1209	900	1.0	111	740	0.7	209	705	2.5	312	730	1.3
筑後川(3)六五郎橋 平成17年度																																																																																						
採取月日	採取時分	BOD (mg/L)																																																																																				
425	1620	2.4																																																																																				
516	840	2.3																																																																																				
615	825	2.4																																																																																				
721	1515	2.2																																																																																				
812	650	1.8																																																																																				
912	805	0.5																																																																																				
1011	745	1.5																																																																																				
1108	650	1.1																																																																																				
1209	900	1.0																																																																																				
123	805	1.0																																																																																				
206	820	1.1																																																																																				
307	735	0.9																																																																																				
筑後川(3)六五郎橋 H17年度																																																																																						
採取月日	採取時分	BOD (mg/L)																																																																																				
425	1620	2.4																																																																																				
516	840	2.3																																																																																				
615	825	2.4																																																																																				
721	1515	2.2																																																																																				
812	650	1.8																																																																																				
912	805	0.5																																																																																				
1011	745	1.5																																																																																				
1108	650	1.1																																																																																				
1209	900	1.0																																																																																				
111	740	0.7																																																																																				
209	705	2.5																																																																																				
312	730	1.3																																																																																				
深山ダム	<p>下から7行目 平成13年度、平成14年度の測定値は先行降雨の影響を受けた値とし、将来水質予測に用いないこととした。</p>	<p>第6回専門委員会資料 資料4-3 p7 下から7行目 平成13年度、平成14年度の測定値は異常値とし、将来水質予測に用いないこととした。</p>																																																																																				

	正	誤
川治ダム	<p>第6回専門委員会資料 資料4-4</p> <p>p8 下から1行目 平成10年9月の測定値は<u>先行降雨の影響を受けた値</u>と判断し、将来水質予測に用いないこととした。</p> <p>p9 上から10行目 平成13年9月および10月の測定値は<u>先行降雨の影響を受けた値</u>とし、将来水質予測に用いないこととした。</p> <p>p9 上から13行目 平成16年12月9日は台風の影響はない。測定日を含む1週間の先行降雨量は61mm観測されているが、T-N以外の他の測定項目の最大値をみると、異常に大きいというレベルではなく、降水の影響はさほど大きくないものと考えられる。以上のことから、平成16年の測定値を<u>先行降雨の影響を受けた値</u>とせず、将来水質予測に用いることとした。</p> <p>p9 下から8行目 水質高濃度年における水質測定時の気象条件等の影響を整理した結果、平成10年9月22日、平成11年10月19日、平成13年9月18日、同年10月2日は降水の水質に対する影響が高く、当該日は<u>先行降雨の影響を受けた値</u>として将来水質予測には用いないこととした。</p> <p>また、これらの<u>先行降雨の影響を受けた</u>データを除外して、T-Nの適用条件を整理すると、N/P比が20以下の年は平成10年度、平成11年度とあるが、T-P濃度はいずれの年度も0.02mg/l以下であり、T-Nは適用除外となる。</p>	<p>第6回専門委員会資料 資料4-4</p> <p>p8 下から1行目 平成10年9月の測定値は異常値と判断し、将来水質予測に用いないこととした。</p> <p>p9 上から10行目 平成13年9月および10月の測定値は異常値とし、将来水質予測に用いないこととした。</p> <p>p9 上から13行目 平成16年12月9日は台風の影響はない。測定日を含む1週間の先行降雨量は61mm観測されているが、T-N以外の他の測定項目の最大値をみると、異常に大きいというレベルではなく、降水の影響はさほど大きくないものと考えられる。以上のことから、平成16年の測定値を異常値とせず、将来水質予測に用いることとした。</p> <p>p9 下から8行目 水質高濃度年における水質測定時の気象条件等の影響を整理した結果、平成10年9月22日、平成11年10月19日、平成13年9月18日、同年10月2日は降水の水質に対する影響が高く、当該日は異常値として将来水質予測には用いないこととした。</p> <p>また、これらの異常値データを除外して、T-Nの適用条件を整理すると、N/P比が20以下の年は平成10年度、平成11年度とあるが、T-P濃度はいずれの年度も0.02mg/l以下であり、T-Nは適用除外となる。</p>